

所属・氏名（薬学部 薬学科 氏名：世良 行寛）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発 表 の年月	発行所、発表雜 誌等又は発表 学会等の名称	概 要
1 (報告・発表) ユビキチンシステムによる Shwachman-Bodian-Dia mond syndrome (SBDS) の機能制御	共	2020年3月	日本薬学会 第140年会	シュバツハマン・ダイヤモンド症候群 (SDS)に關与する SBDS タンパク質と相互作用するタンパク質として ring finger protein2 (RNF2)を同定した。本研究により、RNF2 がユビキチン化を介して SBDS の局在化や量的な制御に關与している可能性が示唆された。 ○世良 行寛、松谷 真次、一瀬 貴史、佐戸谷実希、山口 雅史
2 (報告・発表) 急性前骨髄性白血病治療薬としてのエトポシドの可能性	共	2017年10月	第56回日本薬学会中国四国支部学術大会	概要:白血病細胞の分化誘導能を有する化合物としてエトポシドを見出し、その分化誘導メカニズムについて検討した。 ○世良 行寛、川元 優太、磯部 依里、田川 奈々、重田 雄也、山口 雅史
3 (学術論文) Reprogramming Suppresses Premature Senescence Phenotypes of Werner Syndrome Cells and Maintains Chromosomal Stability over Long-Term Culture.	共	2014年12月	Plos One	論文全体の概要:ウェルナー症候群の患者由来細胞からiPS細胞を樹立し、その性質を解析した。 (当該論文のページ数:担当頁特定不可能) (当該論文の著者名 Shimamoto A, Kagawa H, Zensho K, <b>Sera Y</b> , Kazuki Y, Osaki M, Oshimura M, Ishigaki Y, Hamasaki K, Kodama Y, Yuasa S, Fukuda K, Hirashima K, Seimiya H, Koyama H, Shimizu T, Takemoto M, Yokote K, Goto M, & Tahara H) 担当部分の概要:共同研究につき本人担当部分抽出不可能